

高校教員に聞く「専門職業大学（仮称）」創設への期待と懸念

“次世代の職業教育のニーズはあるが位置付けが不透明。65.1%が「よく分からない」”

＜高校教員へのアンケート結果より＞

高校生向けに大学・短期大学・専門学校等に関する進路情報の提供に約50年の社歴をもつ、株式会社さんぽう（本社：東京都渋谷区／代表取締役社長：渡邊王雄）は、文部科学省が2019年度の創設に向けて制度化を進めている「専門職業大学（仮称）」について、高校教員にどう受けとめられているのか、また現段階での期待や懸念される点を探るため、「専門職業大学（仮称）」に関するアンケートを実施しました。一部を抜粋してご報告いたします。

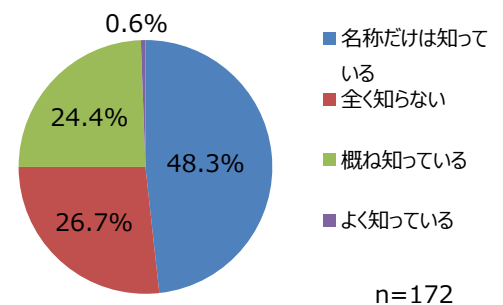
【専門職業大学（仮称）とは ～答申内容より～】 ※ご参考

- 農業・観光・IT など、各成長分野での即戦力かつリーダーとなる人材の育成を目指し、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関。
- 今年5月30日に、中央教育審議会が文部科学大臣に制度化するよう答申。文部科学省では、2019年度の創設を目指しており、実現すれば1964年の短期大学の制度化以来、55年ぶりの新しい大学類型の開設となる。
- 卒業単位の3～4割を実習とし、2年間で300時間、4年間で600時間以上の企業内実習を義務付けている。
- 企業などで5年以上の実務経験を持つ教員を概ね4割以上配置する。

●専門職業大学について「内容を知っている」は25%と低調。

専門職業大学の創設について、「名称だけは知っている」「全く知らない」を合わせると75%。回答した教員の4分の3が専門職業大学の内容までは知らない状況でした。2019年度創設ということは、現在の高校1年生が対象となりますが、まだまだ高校の現場へは情報が浸透していないようです。

「専門職業大学」の創設について

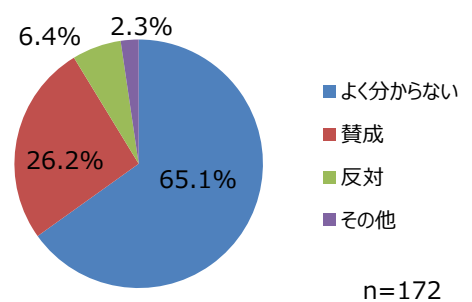


●制度化に「反対」は6.4%。しかし、賛否保留が65.1%。

上記の結果から、多くの教員が専門職業大学の創設に賛成か反対かを判断しかねている状況です(65.1%)。「具体的なカリキュラムが分からない」と何とも言えない「学校制度の中で位置付けが予測できない」「どのような専門職業を想定しているのか」などがその理由で、現時点での文部科学省の情報が漠然としていることが窺えます。

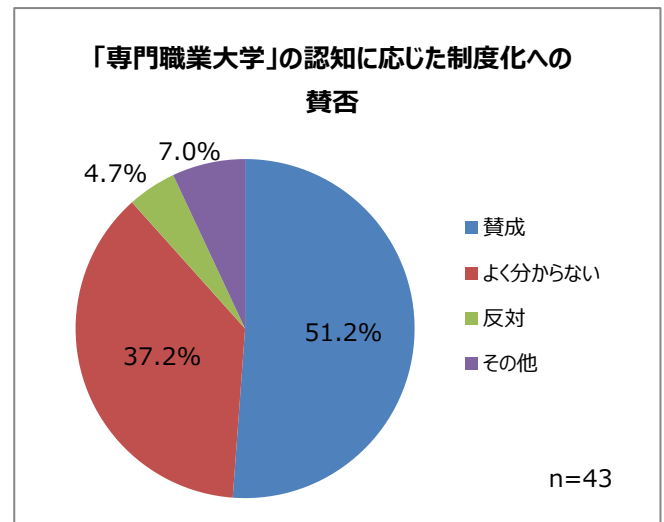
賛否の比較では、賛成(26.2%)が反対(6.4%)を上回っています。賛成理由としては「社会のニーズに適合している」「進路選択の多様性につながる」など、反対理由では「専門学校・大学で対応できるので新たに創る必要性は感じない」「四年をかけて習得した技術が就職時にも新しい技術である保証はない」などがありました。

「専門職業大学」の制度化について



●「専門職業大学」について認識している層のうち、約半数が賛成。反対はわずか約 5%。

専門職業大学について「よく知っている」・「概ね知っている」と回答された層のうち、その制度化について「賛成」は 51.2%、反対は 4.7%でした。つまり、専門職業大学の概要を知ることが、その必要性の理解につながっていると考えられます。本年の初冬までにはさらに詳しい内容が文部科学省から発表される予定となっており、制度化についてのさらなる情報が待たれるところです。



● 高度な職業教育に期待。課題は既存の専門学校・大学との違いの明確化。

専門職業大学創設への「期待」と「懸念」については、下記の順に多かったです(複数選択回答)。

とくに期待したいこと (n=162)	
高度な職業教育	67.3%
高い就職率	45.7%
学費の安さ	42.6%
進路選択の幅が広がること	38.3%
奨学金・学費減免制度の充実	30.2%

- 実践的な職業教育を行う教育機関であることから、「高度な職業教育」に期待する声が多くなっています(67.3%)。次いで就職率(45.7%)が挙げられ、専門的な知識や技術が就職に直結することを望んでいる様子が窺えます。現在の社会状況を反映してか、学費の安さ(42.6%)や奨学金の充実(30.2%)への回答も上位にありました。

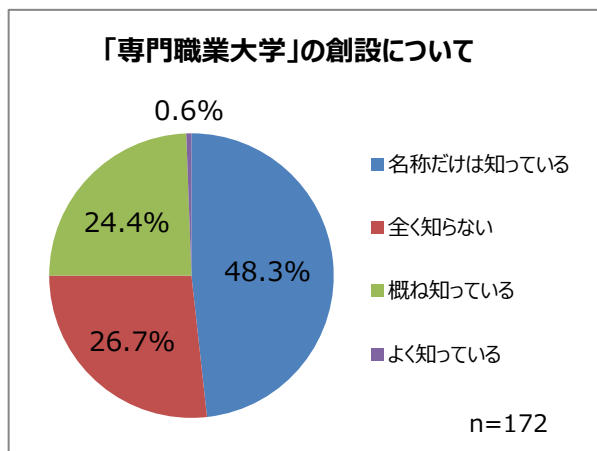
とくに懸念されること (n=169)	
専門学校との違いがわからない	58.0%
既存の大学・短大との違いがわからない	45.6%
生徒や保護者が理解できるか	36.1%
就職先や就職率	32.5%
学費	32.0%

- 「専門学校との違いがわからない」(58.0%)が最も多く、次いで「既存の大学・短期大学との違いがわからない」(45.6%)も半数近くありました。また、専門職業大学について生徒や保護者が理解できるかを懸念する、教育現場ならではの意見も多く見られました(36.1%)。就職と学費については期待している分、学生や保護者の視点に立った現実的な設計になるかを懸念しているといえます(「就職先や就職率」：32.5%、「学費」：32.0%)

【各設問の調査結果詳細と分析】

① 専門職業大学の認知度

問1) 「専門職業大学」の創設をどの程度ご存知ですか。当てはまるもの1つをチェックしてください。

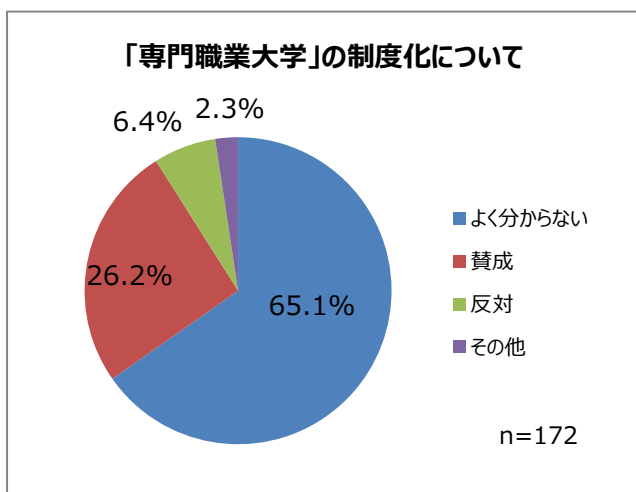


- 「専門職業大学」の制度化について、中央教育審議会から文部科学省への答申が5月30日。その約1ヶ月後、6月下旬のアンケート実施において、26.7%の教員が「全く知らない」という回答でした。
- 大学の類型が新たに設けられるのは短期大学が創設された1964年以来55年ぶり、新しい学校種としては、専門学校(専修学校制度)の創設から数えても1976年以来43年ぶりという大ニュースであるはずですが、あまり認知されていないことがわかりました。また、答申当日は各新聞の夕刊にて報道がありましたが、その後の高校教育現場、大学、産業界、保護者等の反応について報道がなく、社会的にも反響は今ひとつのようです。
- 平成27年度卒高校生の就職内定率(文部科学省による調査)は今年3月末時点で97.7%と25年ぶりの高水準で、大学生の就職率(文部科学省と厚生労働省による調査)も4月1日時点で97.3%と1997年の調査開始以降、最も高い数値を示しています。今年度の求人状況も全国的に堅調なため、新たな進路先としての関心があまり高くないのではと推測されます。

② 専門職業大学への賛否

問2) 「専門職業大学」の制度化についてどのように考えますか。当てはまるもの1つをチェックしてください。

また、その理由をお答えください。



- 答申がまだ理念先行的なもので、具体的なイメージが湧きにくいからか、「よく分からない」との意見が目立ちました(65.1%)。グローバル化・地方創生に対応した高度な職業教育に一定の評価が見られる反面、現行の制度とどう違うのか、その位置付けの分かりにくさも、「反対」や「よく分からない」の一因となっているようです。

◎「賛成」・「反対」・「よく分からない」・「その他」の理由（自由記述回答）から、それぞれを大まかな見解ごとにまとめました。

<「賛成」と回答した理由>

■ 高度な職業教育など、社会のニーズへの対応として評価

- ✓ 「大学を就職予備校的に利用するニーズがある以上、実態に則した制度を作ることは合理的である。」
- ✓ 「職業人育成を目指し、リーダーシップのとれる人材が不足しているため。」
- ✓ 「企業が求める人材にマッチさせていくため。」
- ✓ 「企業に体力がなくなっている。」

■ 高校卒業後の進路多様化を歓迎

- ✓ 「高校生にとって選択肢が増えることになるので賛成。」
- ✓ 「公立専修学校や職業訓練校の充実につながり、進路選択の多様性にも活かされるから。」
- ✓ 「学術研究にはあまり興味がないが進学したい、と考えている者が少なからずいるから。」

■ 既存の大学・専門学校の問題解決

- ✓ 「現時点における大学教育においては、即実践のできる人材育成が難しいと思われるから。」
- ✓ 「優れた研究や産学連携をしながらも、募集難の地方の大学にとっては、差別化を図ることができる。」
- ✓ 「定員割れの大学をつぶした上で目的を明確にしたものを作る方がよいと思うから。」
- ✓ 「専門学校の2年間では短期すぎ。技能が十分に身に付くとは思えない。技能重視を望む。」
- ✓ 「現在の大学は本来の教育・研究を行う機関としての機能を失い、就職するための通過点となっている。」
- ✓ 「本来の大学を取り戻すためには必要だと思われる。」

<「反対」と回答した理由>

■ 現行の大学・専門学校で十分

- ✓ 「専門学校、大学それぞれの枠内で対応できるもの。」
- ✓ 「既存のものを改良していくことよりも優先される理由が分からない。」
- ✓ 「既存の大学の各学部・各学科でもIT化・グローバル化に対応した教育はしている。」

■ 想定している教育内容への疑問

- ✓ 「四年をかけて習得した技術が就職時にも新しい技術である保証はない。」
- ✓ 「インターンシップの単位を卒業単位の30～40%にあて、学内での授業はどうなるのか理解に苦しむ。」
- ✓ 「現行の大学・専門学校との区分・違いが不明確。創設しても尻すぼみ・先細りになる可能性が大。」

<「よく分からない」と回答した理由>

■ 情報不足

- ✓ 「具体的なカリキュラムなどが分からないと何とも言えない。」
- ✓ 「入試制度についてわからないため（国立になるのでしょうか？）。」
- ✓ 「このアンケートで初めて知ったのでイメージがわからない。」

■ 制度化の意義、位置付けがよく分からない

- ✓ 「大学改革の中で各校が実学傾向(専門学校化)を強めている状況とどう差別化できるのか不明。」
- ✓ 「大学や四年制の専門学校との違いがよく分からない。」

- ✓ 「既存の制度の中での対応が可能であるように思える。意義は理解できるものの。」
- ✓ 「日本の学校制度や社会でどのような位置付けになるか予測しきれない。」
- ✓ 「制度ありきのスタートになっていると思われるので、よく分からない。」

■ 教育内容・将来像が見えてこない

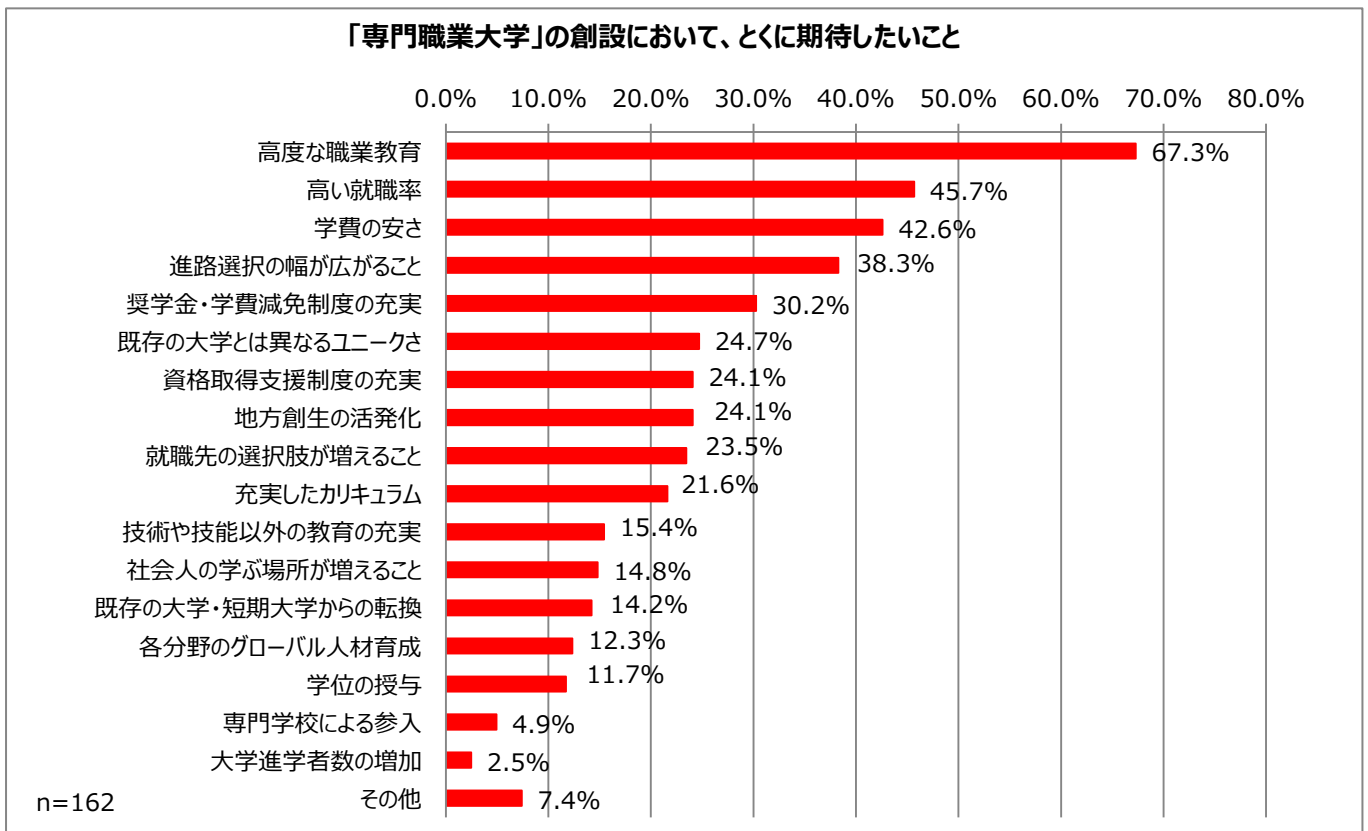
- ✓ 「すでにある学校が転換することが多いと思うが、特徴が今以上に出せるか。」
- ✓ 「今回の専門職業は具体的にどのような職業を想定しているのか分からないから。」
- ✓ 「工業高校教育との接続性について心配。」
- ✓ 「いま進んでいる高大接続改革とのかね合いはどうなるのか。」
- ✓ 「地域産業に卒業後の受け皿があるのか不明。」

<「その他」と回答した理由>

- ✓ 「人材育成は賛成だが、研究(大学)と離れてよいかという疑問はある。研究者と技術者を二分化しそう。」
- ✓ 「すでにそのような学校はあると思う。」

③ 専門職業大学の創設に期待すること

問3) 「専門職業大学」の創設において、とくに期待したいことは何ですか（複数選択可）

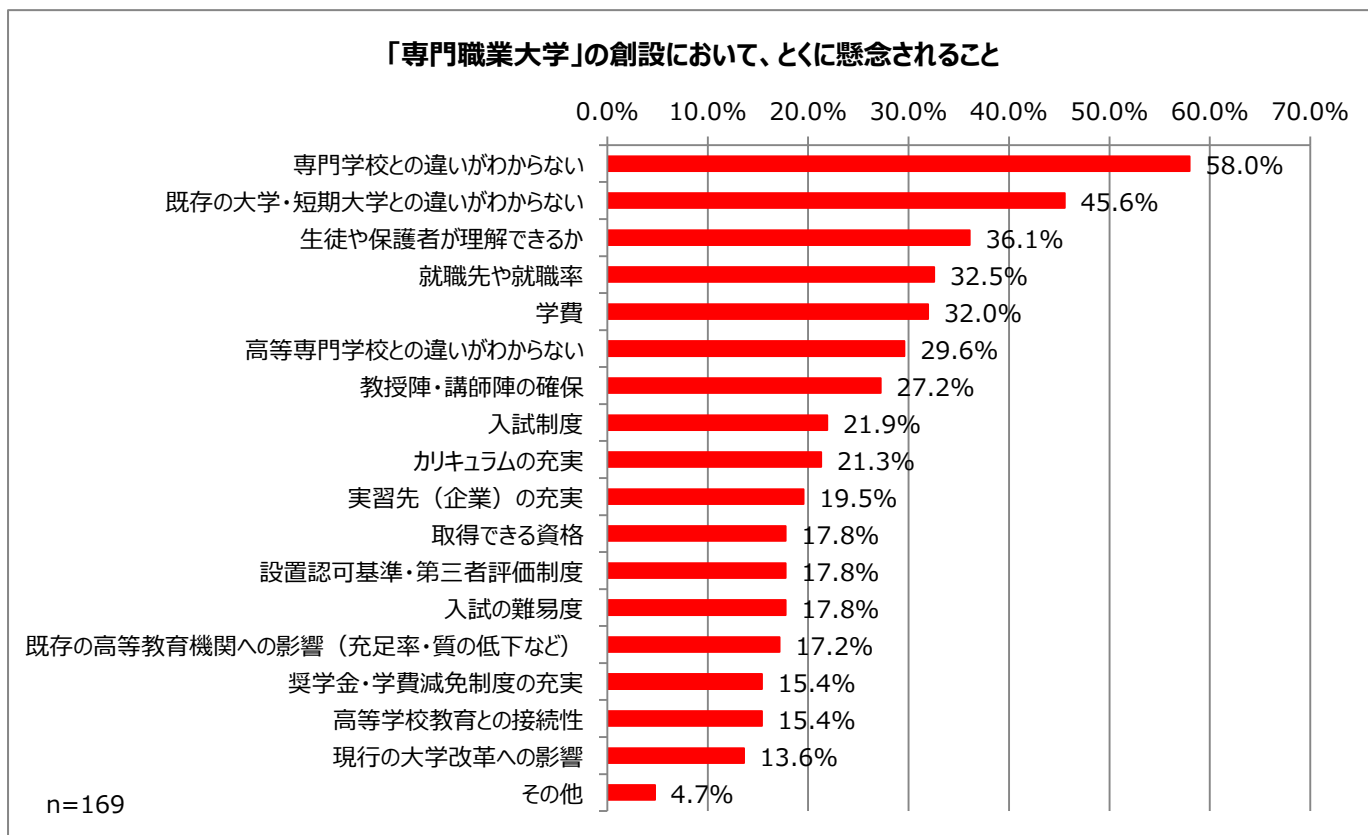


- 実践的な職業教育を行う教育機関であることから、「高度な職業教育」に期待する声が多くなっています(67.3%)。次いで就職率(45.7%)が挙げられ、専門的な知識や技術が就職に直結することを望んでいる様子が窺えます。現在の社会状況を反映してか、学費の安さ(42.6%)や奨学金の充実(30.2%)への回答も上位にありました。
- 文部科学省が極めて重要としている国際的・国内的な通用性について、学位の授与に期待しているのは全体の1割程度(11.7%)でした。とくに海外での就労や修学の際には学位を取得していることが状況を左右しますが、そういった意味ではグローバルという視点よりも、国内での就職等をより意識している様子が窺えます。創設の目的の一つである地方創生を担う人材の育成について、地方創生の活発化に期待する声も伸び悩んでいます(24.1%)。

- その他のコメント記述には、「社会からの認知」「学力が伴わない高校生の安易な大学進学が抑制されること」「日本の文化・伝統に特化したもの(伝統工芸など)、平均化されないものも必要と思う」などがありました。

④ 専門職業大学の創設において懸念されること

問4)「専門職業大学」の創設において、とくに懸念されることは何ですか(複数選択可)。



- 「専門学校との違いがわからない」(58.0%)が最も多く、次いで「既存の大学・短期大学との違いがわからない」(45.6%)も半数近くありました。また、専門職業大学について生徒や保護者が理解できるかを懸念する、教育現場ならではの意見も多く見られました(36.1%)。問3の結果から分かるように、就職と学費については期待している分、学生や保護者の視点に立った現実的な設計になるかを懸念しているといえます(「就職先や就職率」: 32.5%、「学費」: 32.0%)
- 既存の学校種との違いについては、問2でも「よく分からない」理由として指摘する声が多く挙がっています。文部科学省は、既存の学校種だけでは専門職業人の養成に限界があることを、各学校種と比較させながら下記のように説明しています。

学校種	説明
大学	教育と研究をその目的に掲げており、学術研究の発展を担う役割から、専門職業人を養成する機能に比重を置くことは困難。
短期大学	職業人を養成する役割をすでに担っているが、求められる能力が高度化している中で短期の修業年限でこうした要請への対応は困難。
専門学校	社会的ニーズに応える人材の育成を担っているが、教員数や施設設備等の基準が緩やかで、また第三者評価の制度化がなされておらず、その柔軟な制度的な特徴が教育の質を保証するものではない。
高等専門学校	中学校卒業後の後期中等教育から高等教育までを一貫して担い、社会的評価も得ているが、高等学校の卒業者を大量に受け入れることは制度上想定しにくい。

各学校種では実現できないとする基礎・教養や理論に基づく優れた技能等を強みに、現場を牽引していくことのできる人材を養成することが専門職業大学創設の狙いですが、より具体的で明確な違い(制度設計)を強く示す必要があります。

⑤ 専門職業大学についての意見や要望、疑問点などより（抜粋）

問)「専門職業大学」についてご意見やご要望、疑問点などがございましたらご自由にお書きください。

- ✓ 「工業技術系では大学＋大学院２年で技術を身に付けている。日本の先端技術を持続させる為には、粗製乱造ではなく、じっくりと教え込む必要があろう。早期の実現を望む。」
- ✓ 「本当に必要な分野に特化して、レベルの高いものと一般的なものに分けたものができることを期待。」
- ✓ 「素晴らしい取組みだと思うが、高等学校の進路指導への影響がどのようになるのかが不安である。」
- ✓ 「出入をドイツのように自由にして欲しい。」

文部科学省では教育の多様化に関し「生涯を通じた学びによる可能性の拡大」も今後の課題として設定しています。専門職業大学についても、専門高校卒業生、社会人学生、編入学生など、多様な学生を積極的に受け入れることを努力義務としています。海外ではこのような制度が浸透しており、グローバル社会における人材育成を強く意識した内容となっています。

- ✓ 「18歳人口が減っており、既存の大学でもつぶれそうなところがあるのに、さらに大学を作っていくってどうするつもりなのか、文部科学省に憤りを感じる」
- ✓ 「少子化傾向の中で新しい校種を増やしても経営が順調にいくのかが不安」
- ✓ 「専門学校との違いや社会に出てからの位置付けが保証されないと生徒にすすめにくい。既存の国公立大学等が変わればよいかもしれない」

設置形態については、大学・短期大学が一部の学部・学科を転換させるなど、新たな機関を併設し、より多様な学習機会を学生に提供することも可能とされています。

また、以前より各職業での即戦力養成を担ってきた専門学校の方がいち早く転換に向けて動いています。辻調理師専門学校では調理技能に加えてレストラン経営などのマネジメント知識を学ぶコース、また日本工学院専門学校では建築やITの学科において、それぞれ専門職業大学開設の意向を示しています。

- ✓ 「新設ということもあり、企業の人事担当者や親御さんにその価値を認知していただけるかが生徒を進学させるかどうかのネックになる。政府には、広く存在を知ってもらうための広報・PRに力を入れていただきたい」

文部科学省のホームページ掲載資料「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化のポイント」では、「養成する人材」として以下の役割や例を挙げています。

【新たな機関で養成する人材に(将来的に)期待する役割】

- ◆ 生産・サービスの現場で中核的な役割を担う人材等として
 - ・ 生産、サービスの工程の改善やこれを通じた生産性の向上
 - ・ 高度な技能や洗練された技術・ノウハウによる優れた商品・サービスの提供 など
- ◆ その専門性をもって、自ら事業を営み、又はこれを補佐する人材として
 - ・ 新たな付加価値の創造、これを活かした新しい商品・サービスの考案
 - ・ 新規事業の創出、強みのある商品・サービスを活かした新規市場の開拓 など

<成長分野で求められる人材例>

- ・ IT分野では、新たなアイデアの構想・提案等を行うプログラマーやCGデザイナー等
- ・ 観光分野では、接客のプロとして活躍するとともに、現場におけるサービス向上の先導役を果たす人材
- ・ 農業分野では、農産物を生産しつつ、直売、加工品開発等の事業も手掛け高付加価値化、販路拡大を先導する人材

新たな教育機関「専門職業大学」への理解を深めるためには、上記の人材養成に向け、例えば観光分野では4年間で600時間以上の企業別実習にどのようなメニューを用意しているのか(ホテル実習や旅行添乗なのか)、おおむね4割以上とする実務家教員とはどういった実務家を想定しているのか(旅館経営者や調理師や旅行業務取扱管理者なのか)、シラバスはどうかなど、職業別にイメージできるモデルケースの例示が待たれるところです。さらに、大学や専門学校の観光学科とどこが違うのかといった告知も重要です。

以上

【調査概要】

調査方法：郵送による配付／FAXによる返信

調査対象：高等学校進路指導部 延べ5,434件（全日制・定時制・通信制・サポート校など）

調査時期：2016年6月24日～7月15日

回答枚数：173枚

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社さんぽう 教育総合研究センター

久保 勝哉・齋藤 雄太

TEL：03-3378-7977（直通） FAX：03-3378-7992

E-mail：contact@sanpou-s.net

【会社概要】

- 会社名：株式会社さんぼう
- 代表者：代表取締役社長 渡邊 王雄
- 所在地：〒151-0061 東京都渋谷区初台 1-31-16 初台壹番館ビル
- TEL：03-3378-7111（代） / FAX：03-3373-0880
- URL：<http://company.sanpou-s.net/>
- E-mail：tokyo@sanpou-s.net
- 事業内容
 - 高校生対象
 - 高校内開催説明会（ガイダンス）・生徒対象の「大学・短大・専門学校見学会」
 - 進学資料「配布会」・専門学校分野別ガイドブックの発行（全 11 冊）
 - 高校内掲示ポスター（約 100 種類）の発行
（大学進学関連）
 - 大学進学情報紙（教員・保護者対象）「大学 Times」の発行
 - 大学進学情報誌「大学まるわかり事典」、系統別大学進学情報誌学びのすすめシリーズの発行（全 8 冊）
 - 都市開催大学・短大・専門学校説明会（全国主要約 70 都市開催）
（看護・医療系進学関連）
 - 看護・医療系模擬試験（年 2 回） / 看護医療系進学情報誌「看護医療系学校最新入学全ガイド」の発行
 - インターネット事業
 - さんぼう進学ネット（進学総合サイト） <http://www.sanpou-s.net/>
 - さんぼう進学ネットスマートフォン（進学総合スマートフォン向けサイト） <http://smt.sanpou-s.net/>
 - 看護医療進学ネット（看護・医療・福祉系情報サイト） <http://www.ishin.jp/>
 - ホームページ制作
 - 留学企画
 - 海外からの留日説明会・日本からの海外留学説明会
 - 日本留学専門誌「日本留学資訊大全」の発行
 - 「留日ガイド誌」（日本語版 / 韓国語版）の発行
 - 大学生・短期大学生対象
 - 大学、短大生のための進学フェアの実施
 - 大学、短大内掲出 就職に強い資格・検定インフォメーションポスターの発行
 - 高校教員対象
 - 高校教員対象大学・短期大学・専門学校見学会（年 3 回）の実施
 - 高校教員対象研修会「進路指導研究ゼミナール」及び「教育研究フォーラム」の実施
 - 高校教員対象「リサーチ」の発行
 - 大学進学情報紙（教員・保護者対象）「大学 Times」の発行
 - 就職事業
 - 薬剤師求人・情報誌発行・就職イベント開催・薬剤師求人情報サイト運営
 - 医療資格者新卒紹介及び中途紹介
 - 「保育士バンク！ 就職・転職フェア」の企画運営 / 「foodzania-フーズニア-」の企画運営
 - Bslink（薬剤師求人情報サイト） <http://bslink.jp/>